

いよいよ機は熟した——
待望のベートーヴェン・ソナタ・アルバムをリリース

小山実稚恵

【ピアノ】

ききて・文||長井進之介
写真||青柳聡



Michie Kovama

ピアニストとして第一線で活躍を続ける小山実稚恵。楽譜の緻密な読み込みと、あたたかさやわらかさに満ちていながら、凜とした佇まいを感じさせる圧倒的な音色によって紡ぎ出される演奏はつねに多くの聴衆を魅了してきた。2019年からはリサイタルシリーズ「ベートーヴェン、そして……」を開始。ベートーヴェンの後期5大ソナタ（第28〜32番）を軸に、J.S.バッハやモーツァルト、シューベルトの作品を扱い、作曲家の魂や想いを代弁する演奏を届け、回ごとにさらなる音楽の深まりを感じさせてくれる。そんな彼女の最新作はベートーヴェンのピアノ・ソナタ。意外にも、これは彼女にとって初めてのベートーヴェン・ソナタ・アルバムとなる。

何を伝えたいかを明確に
能動的に弾く

「ベートーヴェンの作品はずっと弾いてきましたし、リサイタルでも取り上げて

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第28番、同第29番（ハンマークラヴィーア）
〈録音：2020年1月〉
〔ソニー® SICC19050〕
CD&SACD



ベートーヴェン：バガテル《エリーゼのために》、ロンド イ長調 WoO49、バガテル 八長調 WoO56
〈録音：2019年6月〉
〔ソニー® SIKC1000〕
45回転7インチ・アナログ・シングル



■新刊書籍

ベートーヴェンとピアノ 限りなき創造の高みへ
小山実稚恵・平野昭 著
長井進之介 編集協力
〔音楽之友社〕



ベートーヴェンとピアノ 「傑作の森」への道のり
小山実稚恵・平野昭 著
長井進之介 編集協力
〔音楽之友社〕



（第29番の第3楽章は）ベートーヴェンの時代の楽器の音も念頭に置きつつ、私の想いが最も込められることから生まれたテンポです。あえて速くしたというつもりはなく、内からでてきたものがあのテンポでした



きました。録音をしてこなかったのは、修学の時期にあまりにも偉大な存在が身近にあり、自分の中にすばらしいベートーヴェンの「理想像」のようなものができていたからかもしれません」

学生時代、小山はドイツ音楽の伝統を日本に根付かせた田村宏に師事し、ベートーヴェンをはじめ、独逸のレパートリーを多く学んだ。それだけに「別格の想いがあった」という。

「最初に受けた国際コンクールがチャイコフスキー国際コンクールで、これを機にロシアの作品など、新たな世界に触れることが増えていきました。それもあって、ベートーヴェンの難しさをさらに実感するようになっていったのです。もちろん他の作曲家もそうなのですが、とりわけベートーヴェンは、習ったことで弾く音楽ではありません。もちろん基礎的な土台がなければ弾けないけれど、それでは本当のベートーヴェンの表現にはならないのです」

ベートーヴェンの音楽は、技術や感覚でカバーできるものではないものがあるという。だからこそ、取り組むのには躊躇したようだ。

「ピアノはそもそも弾くことが難しい楽器ですから、それをしっかり達成しようとするだけで、その呪縛にとらわれてしまいます。楽譜を読めば読むほど、楽譜に書かれている通りに弾くことの難しさにぶつかるのです。そしてそれを自分でどう表現するか、ということを考える過程でさまざまな演奏に触れていくと、こ

うでなくてはならないという型にはまってしまうようなところもあって……。だけど、それでは意味がないのです」

ベートーヴェンを弾くには「能動的でなければならぬ」という。

「ベートーヴェンは、信じられないほど斬新な精神をもっていましたし、つねに挑戦し続けていた人。だからと

いって、偉大過ぎるから」と引いてしまうのではなく、そこから得たものを自分でどう感じ、何を伝えたいかを明確にしながら進んでいくのです。たとえ、それが拙いものだったとしても、その作品にどう向き合うかを決めて、自らの表現を創り出していかなければならぬ。そうやって、それをお届けできる段階にきたかなと思っています」

ここまで到達するには、昨年と今年に音楽学者の平野昭との共著で出版した書籍『ベートーヴェンとピアノ』のためにベートーヴェン作品を新たに見直してきたことが大きかったという。

「別の角度からベートーヴェンの作品を見続けてこられたというのは大きかったかもしれません。ピアニストとして演奏

するだけではない、違った視点からベートーヴェンの作品と対峙するということがとても助けになりました。ベートーヴェン自身がピアノを軸にあらゆるジャンルで挑戦を続けたことをあらためて実感できましたから」



ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第28番&第29番《ハンマークラヴィア》の録音風景。録音は2020年1月28日から31日まで軽井沢大賀ホールで行なわれた

本当に美しい第28番 すべてが詰まった第29番

今回録音したのは第28番と第29番のソ

ナタ。今後、全曲録音などの計画はあるのだろうか？

「現段階ではピアノ・ソナタ全曲をやるかどうかは、まったくわかりません。他にも取り組みたい作品や作曲家もありますから……。ただ、第28番から第32番までの5つについては絶対に録音したいのです」

第28番と29番は、すでに「ベートーヴェン、そして……」でも演奏しており、楽曲の抒情性、構造の明確さなど、あらゆる点で深みを帯びた演奏を聴かせてくれた。「第28番は冒頭から本当に美しい作品で、ベートーヴェンの抒情性が明確にあらわれていますね。一方、第29番はベートーヴェンの重厚さ、新しさ、そして過激さ——あらゆるものが盛り込まれた作品。新しい楽器への挑戦の意志も感じられます。また、この曲の難しさについてベートーヴェンが、50年経てば人も弾くという言葉を残していますが、これは弾ける弾けないという問題を超えて、自分の表現したいことを追求しているということを反映している言葉だと思うのです。音楽への渴望、執念が感じられる——だからこそ、非常に胸を打たれます。そして第28番の美しさとの対比がまたすばらしい。ですから、この2つからレコーディングを始めました」

レコーディングは今年の1月に行なったが、昨年のリサイタルを経たことで何か変化はあったのだろうか。

「気が付いたところがとても多かったです。特に第29番の第4楽章のフーガは構

造がより立体的に見えるようになりまし
た。それでもまだ探求は尽きません。縦
の音楽の中に流れていく横の音楽、それ
をどう組み立てていくか……」

小山の演奏は、多彩な音が絶妙なバラ
ンスで配置され、美しく重ねられている。
しかもそれがただ構造的である、という
だけでなく、非常に心動かされるのだ。
またフーガにおける立体感はもちろんだ
が、とりわけ美しいのが第3楽章だった。
「第3楽章は、第29番の『白眉』だと思
います。もちろん全楽章すばらしいので
すが、第3楽章は、シューベルトと同じ
主題を繰り返すときにはほんの少し和音を
変えたりバッセージを変化させたりして
いく手法に似ていて、非常に感動的。第
31番や第32番のこの世を超えたような表
現とはまたちがう、凄み」がこの曲には
ありますよね」

小山の第3楽章で特徴的なことの一つ
にテンポがある。テンポを遅めにとる演
奏も多いが、小山は推進力のある演奏で
展開している。

「ベートーヴェンの時代の楽器の音は現
代の楽器ほど持続しない、ということも
念頭に置きつつ、私の想いが最も込めら
れることから生まれたテンポです。私自
身はあえて速くした、というつもりはな
く、内からでてきたものがあのテンポで
した。あとは全楽章のバランスもありま
す。特に後期のソナタは全楽章でひとつ
という感覚が強まっていますから。それ
から、第3楽章においては、ベートーヴェ
ンが校正したときに、冒頭に『ラ』と『ド』
の音だけつけ加えています。ということ
は、この2つの音は、テンポを示唆する
非常に重要な意味合いを持っていたので
はないかと思うのです」

**演奏にも通ずる
アナログ盤を聴く感覚**

ベートーヴェンに対する小山の敬愛、
探求が詰まった今回のディスクだが、そ
のジャケットも美しい。一緒に写ってい
るピアノは、小山が所有しているピアノ
だという。

「1895年A型のスタインウェイです。
今回の録音に使用したわけではないので
すが、とてもふくよかで多彩な音がでる
ピアノで、すっかりはれ込んでいます。
このピアノで弾くことができたのです。さま
ざまな可能性を拓いてくれるピアノです」
今回は写真のみの登場だが、今後、演
奏会やレコーディングで使う可能性もあ
るのだろうか？

「いまのところはないのですが、レコー
ディングに使用するものもおもしろいかも
しれません。ソナタ・アルバムの前に出
したアナログ盤に入れたような小品をこ
の楽器で弾いたら、とろけるような音が
録れると思います」

そのアナログ盤「エリーゼのために」は、
どのような経緯でレコーディングされた
のだろうか？

「ソニーもアナログ盤を自社製作できる
ことになり、クラシックも作ってみよう
ということになったのです。そこで今回『エ
リーゼのために』とロンドW.O.49、バ

ガテルW.O.56を入れてみました。とて
も味わいのあるものになったと思います」
アナログ盤を聴くというのは、小山が
ベートーヴェンを演奏する際に感じてい
ることとても近い感覚があるという。

「アナログ盤は聴くたびに盤が傷つき、
少しずつ音が劣化してしましますよね。
そこで響く音は一度かきりしか聴けない。
そう思うと、ある意味で生演奏と同じよ
うな、その時かぎり」という感覚があり
ますから、自然と聴き手は能動的に聴こ
うとします。この感覚は演奏においても
とても重要なことで、通じるものがある
と思います」

生きるために、必要な音楽

小山は、「ベートーヴェン、そして……」
シリーズで引き続きベートーヴェンとの
深い対峙を聴かせてくれる。新型コロナウイルス
ウィルス感染症の影響で延期になった第
3回、そして第4回の公演が秋に控えて
いる。それを越えた先にはどのようなも
のを弾いていきたいと考えているのだら



J.S. バッハ：ゴルトベルク変奏曲
〈録音：2017年2月〉
〔ソニー・D SICC19032〕CD&SACD



シューベルト：即興曲集 D.899, Op.90, 同 D.935, Op.142
〈録音：2015年1月〉
〔ソニー・D SICC10230〕CD&SACD



ショパン：前奏曲、コラールとフーガ、J.S. バッハ：シャコンヌ（ブゾニ二編）、シューベルト：即興曲 D.935-3、ワグナー：インデルの愛の死（リスト編）、ショパン：ポロネーズ第7番（幻想）
〈録音：2012年9月〉
〔ソニー・D SICC1626〕



ヴォカリーズ
〔D. スカルラッティ：ソナタ K247、ラフマニノフ：ヴォカリーズ、ドビュッシー：亜麻色の髪の乙女、リスト：ため息、ドビュッシー：月の光、チャイコフスキー：舟歌、シューマン：献呈、他〕
〈録音：2011年9月〉
〔ソニー・D SICC1625〕



ラルゲット〜ショパン・アルバム
〔舟歌、即興曲第4番（幻想即興曲）、ピアノ協奏曲第2番〜第2楽章（ピアノ独奏版）、他〕
ヤーツェク・カスプシク指揮シンフォニア・ヴァルソヴィア
〈録音：1986年10月〜2010年7月〉
〔ソニー・D SICC1411〕



ショパン：ピアノ協奏曲第1番、同第2番
ヤーツェク・カスプシク指揮シンフォニア・ヴァルソヴィア
〈録音：2009年5月〉
〔ソニー・D SICC10090〕CD&SACD



シューベルト：幻想曲（さすらい人）、即興曲集 D.899, Op.90
〈録音：2006年7月〉
〔ソニー・D SICC10042〕CD&SACD



ショパン：バラード全曲
〔バラード第1番〜第4番、前奏曲第25番、マズルカ第32番、子守歌、舟歌、夜想曲第19番〕
〈録音：2005年3〜4月〉
〔ソニー・D SICC10028〕CD&SACD



スクリャービン：ピアノ・ソナタ全集
〔ピアノ・ソナタ第1番〜第10番、他〕
〈録音：2002年10月〜04年3月〉
〔ソニー・D SICC201〜3〕



ラフマニノフ：①ピアノ協奏曲第3番②ピアノ・ソナタ第2番
ブラザー・ミル・フェドセーエフ指揮モスクワ放送 SO
〈録音：①2002年6月②02年2月〉
〔ソニー・D SICC121〕



ショパン：序奏と華麗なるポロネーズ（独奏版）、ピアノ・ソナタ第2番（葬送）、24の前奏曲
〔録音：2000年5〜6月〕
〔ソニー◎ SRCR2574〕



ファンタジー
〔J.S. バッハ：半音階的幻想曲とフーガ、モーツァルト：幻想曲K.397、ショパン：幻想曲、シューマン：幻想曲、スクリャーピン：ピアノ・ソナタ第2番（幻想ソナタ）〕
〔録音：1999年6月〕
〔ソニー◎ SRCR2458〕



J.S. バッハ：パルティータ第2番、ベルク：ピアノ・ソナタ、リスト：同、ショパン：マズルカ第36番、第37番、第47番
〔録音：1998年6月〕
〔ソニー◎ SRCR2339〕



夜想曲
〔フォーレ：夜想曲第2番、バーバー：夜想曲、フィールド：夜想曲第5番、ショパン：夜想曲第21番、第20番、グラナドス：なげき、またはマハと夜うぐいす、ブランク：夜想曲第4番（幻の舞踏会）、他〕
〔録音：1997年6月〕
〔ソニー◎ SRCR1897〕



ラフマニノフ：練習曲集《音の絵》Op.33、同Op.39
〔録音：1996年6月〕
〔ソニー◎ SICC39030〕



リスト：ピアノ作品集
〔ラカンパネラ、エステ荘の噴水、ベトラルカのソネット第104番、ウィーンの夜会第6番、タベの調べ、忘れられたワルツ第1番、ハンガリー狂詩曲第2番、夜想曲（夢の中に）、鬼火、メフィスト・ワルツ第1番（村の居酒屋での踊り）〕
〔録音：1995年4月〕
〔ソニー◎ SICC39029〕



ラヴェル：ピアノ作品集
〔ラ・ヴァルス、亡き王女のためのパヴァーヌ、道化師の朝の歌、水の戯れ、ソナチネ、夜のガスパーリ〕
〔録音：1993年10月〕
〔ソニー◎ SICC39028〕



ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番、バガニニの主題による狂詩曲
アンドルー・デイヴィス指揮BBCSO
〔録音：1992年10月〕
〔ソニー◎ SICC39027〕



スペイン：ピアノ名曲集
〔グラナドス：演奏会用アレグロ、同：スペイン舞曲第2番（オリエンタル）、同第5番（アンダルサ）、アルベニス：グラナダ、同：入江のざわめき、同：セギディリヤ、同：組曲（イベリア）第1集、同：ババーナ・カプリチオ、ファリャ：組曲（恋は魔術師）〕
〔録音：1992年5月〕
〔ソニー◎ SICC39026〕



シューマン：謝肉祭、クライスレリアーナ
〔録音：1989年10月〕
〔ソニー◎ SICC39025〕

「もちろんベートーヴェンはまだまだ弾きたいです。初期のソナタや変奏曲、それに室内楽も。あとはシューベルトのピアノ・ソナタやバッハの『平均律』にも取り組みたいなと思っていますが、まだ

具体的には決めていません。いまは世界的に非常に厳しい状況になり、音楽家たちの活動は大きく制限されている。だが、このような状況だからこそ、音楽の力を小山は信じている。『東日本大震災の時も思ったことなので

すが、音楽は、どう生きるか、のために必要と思われることが多いと思うのです。でも私は、生きるために、必要だと思っ

ています。すぐにお腹を満たすものではないけれど、例えば食事がとれないときに、音楽は一食分の「支え」になること

うか。



Michie Koyama

人気・実力ともに日本を代表するピアニスト。チャイコフスキー国際コンクール、ショパン国際ピアノ・コンクールの二大コンクールに入賞以来、今日に至るまで、コンチェルト、リサイタル、室内楽と、つねに第一線で活躍し続けている。2006年〜17年までの壮大なシリーズ「12年間・24回リサイタルシリーズ」は、その演奏と企画性が高く評価された。19年春からは、新シリーズ「ベートーヴェン、そして…」がスタート。国内外の主要オーケストラや国際的指揮者との共演も数多い。東日本大震災以降、被災地で演奏を行ない、仙台では自ら企画立案したプロジェクト「こどもの夢ひろば“ボレロ”」を毎年開催している。CDは、ソニー・ミュージックジャパンインターナショナルと専属契約を結び、『シャコンヌ』でレコード・アカデミー賞器楽曲部門受賞。30枚目となる「バッハ：ゴルトベルク変奏曲」は、「レコード芸術」の特選盤に選ばれた。最新盤は7月にリリースした自身初のベートーヴェンのソナタ録音「ハンマークラヴィア・ソナタ他」。17年度 紫綬褒章受章。

<公演情報>

- 小山実穂恵ピアノ・リサイタル
 - ◎2021年4月28日(水) 京都コンサートホール(小)
 - 問い合わせ先 075-353-7202
 - ◎9月20日(日)16:00 東京文化会館(小)
 - 問い合わせ先 03-5685-0650
- 小山実穂恵ピアノシリーズ「ベートーヴェン、そして…」第3回<知消息の奇蹟>ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第30番、J.S. バッハ：ゴルトベルク変奏曲
 - ◎9月12日(土)15:00 名古屋・しらかわホール
 - 問い合わせ先 052-678-5310
 - ◎9月22日(火・祝)15:00 札幌コンサートホール Kitara(小)
 - 問い合わせ先 011-211-1463
 - ◎10月3日(土)15:00 オーチャードホール
 - 問い合わせ先 03-3477-9999
 - ◎10月16日(金)19:00 福岡・FFGホール
 - 問い合わせ先 092-863-3235
 - ◎11月23日(月・祝)14:00 大阪・いずみホール
 - 問い合わせ先 06-6926-4888
 - ◎12月4日(金)19:00 仙台銀行ホール イズミティ 21
 - 問い合わせ先 022-302-3344
- 小山実穂恵ピアノシリーズ「ベートーヴェン、そして…」第4回<本能と熟成>ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第0番、第5番（皇帝）、他 共演＝山田和樹指揮 横浜シンフォニエッタ
 - ◎11月3日(火・祝)15:00 オーチャードホール
- 東京都交響楽団（大野和士指揮）
 - ベートーヴェン：三重協奏曲（矢部達哉 vn、宮田大 vc）
 - ◎9月16日(水)19:00 サントリーホール
 - 問い合わせ先 0570-056-057
- NHK交響楽団（飯森範親指揮）
 - チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番
 - ◎10月1日(木)19:00 東京オペラシティコンサートホール
 - 問い合わせ先 03-5790-6423
- 札幌交響楽団（マックス・ボンマー指揮）
 - ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番（皇帝）
 - ◎10月10日(土)14:00 札幌コンサートホール Kitara
 - 問い合わせ先 011-520-1771
- 小山実穂恵の四季シリーズ
 - ショパン：ピアノ協奏曲第1番、同第2番（以上室内楽版）
 - 共演＝クアルテット・エクセルシオ、渡邊玲雄（cb）
 - ◎10月23日(金)15:00・24日(土)15:00 ハケ岳高原音楽堂
 - 問い合わせ先 0267-98-2131